

新しい 授業 づくりの文化を創る

第10号

令和4年10月31日 「能力ベースの授業づくり実践講座」 教材研究会

教材研究会と授業研究会を1セットとして実施する「能力ベースの授業づくり実践講座」。5セット目の教材研究会にあたる今回は、小学校4年生 社会科 単元「大阪府の特色ある地域の様子」について、「能勢町の自然や伝統を守る取り組み・堺市の刃物づくり・大阪市の国際交流」に着目し、「位置や空間的な広がり・時期や時間の経過・事象や人々の相互関係の視点」から学んだ地域を比較したうえで、「自分が紹介したい地域のリーフレットを作る」という提案です。



研究授業 第4学年 社会科「大阪府の特色ある地域の様子」

授業者 渡部 肇 教諭(吹田市立南山田小学校)

授業者の提案

【WHY なぜ「大阪府の特色ある地域の様子」を学ぶのか？ 児童は何かができるようになるのか？】

学習指導要領に示されている教科の目標である「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ため、「大阪府の特色ある地域」の単元では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、地域の様子や特色を捉え、課題を把握して問いを持ち、解決しようとする中で、自分が住む地域に誇りや愛情を持ち、自分にできることを主体的に考えられる子供を育む。

【WHAT「大阪府の特色ある地域の様子」で何を学ぶのか？】

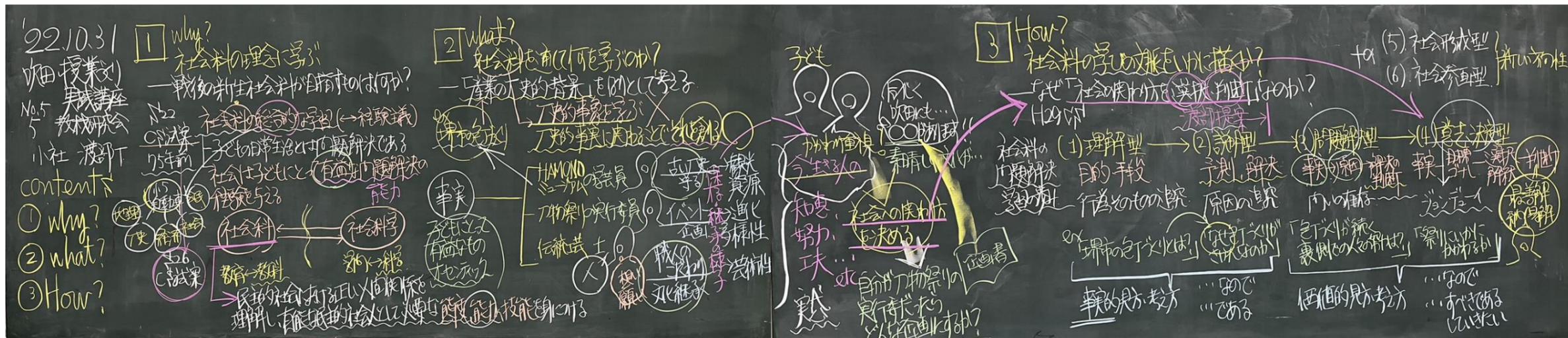
「つかむ(学習問題を設定する)・「追求する(諸資料や調査活動等で調べる)・「まとめる(自分に何ができるか考え表現する)」という3つの学習過程を、単元を通して描く。また、この学習過程を繰り返し経験することで、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察することを学ぶ。

【HOW どのように「大阪府の特色ある地域の様子」を学ぶのか？】

本単元では、言語活動として、「自分が紹介したい地域のリーフレットを作り、家族に紹介すること」を設定した。そのために、能勢町・堺市・大阪市について「位置や空間的な広がり・時期や時間の経過・事象や人々の相互関係」の3つの視点で表に整理する。これらを比較することで、自分の選んだ地域の「良さ」について考える。

<論点> 「単元終了後に子どもたちがどんな姿になればよいのか。～単元を通して、授業者の提案する子どもの姿でよいか。～」

齊藤先生



WHY の視点

社会科の理念に学ぶ(戦後の新生社会科が目指すもの)

子どもの日常生活とは問題解決である。社会科は、民主主義社会における正しい人間関係を理解し、有能な民主的社会人として必要な態度・能力・技能【公民的資質】を身に付けることが目標であり、知識を覚える教科ではない。社会科の授業の問いで「なぜ」は禁句。大事な「なぜ」を調べ終えることではなく、将来にわたって民主的に有能な社会人になるための能力を身に付けることであり、同じような場面、または少し違った場面になった時に、自らが判断して行動できる人間になることである。

WHAT の視点

社会科を通して何を学ぶのか?(産業の歴史的背景を例として考える)

産業が継承してきた歴史的文化的側面を学び、事実に関わることによって歴史を創っていく子どもにしたい。社会科は「人の営み」を学ぶ教科。人が何を語っているか、思いや願いといった声、気持ち、考えを学び(例:電話インタビュー)、いかに文化を保存し、継承しているのか、その様子を感じるによって今生きる人々の知恵や努力・工夫を子ども自身が実感していくことが非常に大事。地域の特色を調べ抜いたうえで、「自分だったらどうするか」、社会との関わり方を決めることが重要である(例:企画書作り)。

HOW の視点

社会科の学びの文脈をいかに描くか?(なぜ社会との関わり方を選択・判断なのか)

現行の学習指導要領が期待する問題解決学習は、意志決定型である。選択・判断というのは根拠をはっきりと持って自分が選ぶ、自分で決めるということであり、非常に汎用性の高い能力である。決まった目標・ゴールに向け、企画書を作る時にしっかりと事実・状況の選択をし、解釈をして、最終的に判断をする。この判断の結果は最善解であり、納得解。つまり一人ひとりの子どもにとって一番有効な解である。「～なので…すべきである、…していきたい」と考えられる子どもを育てたい。

【受講者の声】

- ・今までの自分の社会科の授業を振り返り、意志決定型の授業づくりを今一度考える機会をいただきました。人の営みを通して、社会的事象を見ていくことの大切さが心にしみました。(Y先生)
- ・今回は特に面白かったです。教育は人格形成であり、私たちは、子どもたちが様々な人と出会える機会をつくり、つながり合うことで自分事として問題解決できるようにしていきたいと感じました。(T先生)
- ・社会科に限らず、全ての教科で活動に対する必然性が大切だと改めて感じました。(K先生)

【編集後記】

“学習指導要領をどう読み解き、解釈するか”教材研究会では、授業者の提案について研究会の参加者全員で多角的に思考し、より良い授業を目指して議論しました。今回の協議を経て、再構成された学習指導案(単元計画)をもとにして、12月16日(金)に今年度最後の授業研究会が南山田小学校にて行われます。現行学習指導要領の主旨を実現するための授業改善は急務です。“能力ベースの授業づくり実践講座”は、授業力の向上を目指す先生方の道標となります。参加をお待ちしています。(文責:教育センター 盛園)

新しい 授業 づくりの文化を創る

学び続ける教師の軌跡

10